

コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の 在り方に関する研究 —単元構想の工夫と言語活動の充実—

高等学校新学習指導要領の趣旨を踏まえて、学習到達目標を明確にした単元構想と、言語活動を中心とした英語で行う授業の在り方について検討した。生徒の実態を捉えた上で、英語によるコミュニケーション能力を育成するために、ペア・ワークやグループ・ワークを設定したり、Q-Aやワークシートを工夫したりして授業実践を行った。各実践により日本語訳に頼らず英問英答による内容理解ができることや、英語での自己表現活動において生徒の意欲が高まるなどの成果が得られ、単元構想を活用した授業改善の効果が検証された。

＜検索用キーワード＞ 新学習指導要領 外国語 英語 授業改善 CAN-DOリスト
学習到達目標 単元構想 言語活動

研究会委員

| | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 県立昭和高等学校教諭 | 名和 孝（平成23,24年度） |
| 県立瀬戸西高等学校教諭 （現県教育委員会生涯学習課教育主事） | 岡島 正純（平成23年度） |
| 県立長久手高等学校教諭 | 加藤 祐子（平成23,24年度） |
| 県立一宮高等学校教諭 | 豊島 澄子（平成23,24年度） |
| 県立豊田西高等学校教諭 | 今田 祐之（平成24年度） |
| 県立松平高等学校教諭 | 山本 徳子（平成23,24年度） |
| 県立成章高等学校教諭 | 谷中美奈子（平成23,24年度） |
| 県立御津高等学校教諭 | 鈴木 稔（平成23,24年度） |
| 総合教育センター研究指導主事 | 米津 明彦（平成23,24年度主務者） |

1 はじめに

平成21年3月に告示された高等学校新学習指導要領では、外国語科の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とこととされている。また、英語に関する各科目については、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」ことが明記された。生徒が授業の中でできるだけ多く英語を使用できるように、英語による言語活動を授業の中心とすることが求められている。

近年、SELHi（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）指定校等による先進的な取組を参考として、全国の高等学校で英語による授業を行うための工夫が進められている。愛知県でも、平成21年度から県教育委員会高等学校教育課による「英語科教員地区別研修」が実施され、授業改善の在り方や具体的な指導方法等を、研究授業及び研究協議を通して習得するなどの機会があり、多くの学校が授業に言語活動を取り入れる工夫を進めている。しかし、教員間での指導方針の相

違や目指す生徒像が定まっていないことなどから、授業改善を進めることが困難な学校もある。

このような背景から、本研究では、学習到達目標を明確にして、生徒の実態に応じた言語活動を取り入れた単元構想の在り方を検討し、授業実践による考察を経て、継続的な授業改善の参考となる取組を提案することとした。

2 研究の目的

高等学校新学習指導要領の趣旨を踏まえて、学習到達目標を明確にした単元構想と、言語活動を中心とした英語で行う授業の在り方について研究する。生徒が英語を使用しやすいようにペア・ワークやグループ・ワークを設定したり、Q-Aやワークシートを工夫したりすることにより、生徒の英語によるコミュニケーション能力を養うことをねらいとした授業実践の成果と課題を報告するとともに、今後の授業改善につながる指針を提案する。

3 研究の方法

生徒の英語によるコミュニケーション能力を養うための単元構想と言語活動の在り方について研究協力委員相互で協議し、次の項目について分析・考察する。また、その成果を広く発信する。

- ① 言語活動に対する生徒の意識について
- ② 単元構想の様式とCAN-DOリストの作成方法について
- ③ 単元構想を基にした授業実践による生徒の変容について

4 研究の内容

(1) 言語活動に対する生徒の意識分析

生徒のコミュニケーション能力を育成するためには言語活動を授業に導入することは不可欠であるが、生徒がどのような指導方法を望んだり、逆に抵抗を感じていたりするのかを把握して効果的に進める必要があると考えた。そこで、アンケート調査により高等学校第1学年生徒の授業や言語活動についての意識を分析した。

(2) 単元構想の様式とCAN-DOリストの作成方法

一つの単元を通して身に付けさせたい力とそのための手順が明らかになるような単元構想のまとめ方とCAN-DOの記述の仕方について、国立教育政策研究所による「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）」（平成24年7月）及び文部科学省による「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】〈外国語科〉」（平成24年6月）を基に検討した。

CAN-DOリストの作成に関しては、県教育委員会による平成24年度高等学校新教育課程愛知県説明会において、「科目ごと、教科書の単元ごとの観点別評価の中で、特に『外国語表現の能力』と『外国語理解の能力』に焦点を当て、その2つの観点から4技能について『～ができる』という記述で学習到達目標を示すとともに、その評価時期及び評価方法を具体的に記載する形式」をまず考えることが各学校に示されており、その方針を踏まえた作成方法を協議した。特に学習到達目標（評価規準）に対応した言語活動を設定することに留意した。

単元構想の様式については、「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】〈外国語科〉」の各指導事例の【学習活動の概要】と【解説】の様式（資料1）を基本とすることにした。単元の概要、言語活動の位置付け及び工夫、さらにCAN-DOを含む観点別評価規準を整然と記述できるため、各校における単元構想の共有にも有効であると判断したものである。

【資料1 「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】〈外国語科〉」からの事例抜粋】

外国語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ) 事物に関する紹介を聞いて概要を捉えたとともに、聞いた内容【学習活動の概要】を応用して話すことに結び付ける事例

1 単元名 Lesson 10 Student Life in Sweden

2 単元の目標

- 理解できないところがあっても、既知の表現や文脈から推測するなどして聞き続ける。
- 自分の学校の行事について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明する。
- 事物に関して紹介している対話を聞いて、事実と意見を区別しながら概要を理解する。
- 比較表現及び現在完了を用いた基本的な英文の意味や構造を理解する。

3 単元の評価規準

| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
|---|--|---|------------------------------------|
| 理解できないところがあっても、既知の表現や文脈から推測するなどして聞き続けている。 | 自分の学校の行事について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明することができている。 | 事物に関して紹介している対話を聞いて、事実と意見を区別しながら概要を理解することができている。 | 比較表現及び現在完了を用いた基本的な英文の意味や構造を理解している。 |

4 単元の概要と言語活動

本単元は、スウェーデンの高校生が日本の高校生に、校外行事や校外行事で訪れるアイスホテルについて説明している対話文である。本単元を使って、背景知識の少ない事例を紹介した英文を聞いて概要を理解する力を養うとともに、事物の特徴を口頭で分かりやすく説明する言語活動を行う。

5 単元の指導計画(全6時間)

| | 学 習 活 動 | 言語活動に関する指導上の留意点 |
|------------|---|--|
| 第1次 (4) | <ul style="list-style-type: none"> 教科書に出ている写真や本文のキーワードを利用して、聞く内容を推測する。 ワークシートに示された質問を読んで、聞き取るべきポイントを事前に確認する。 スウェーデンにある高校の校外行事や、校外行事で訪れるアイスホテルに関する対話を聞く。 聞き取りづらい部分の音声の特徴を理解する。 本文と類似した事物を紹介する英文を聞いて、概要を理解する練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒とのインタラクションを通して、聞く内容に興味をもたせる。 リスニング用のワークシートを用意し、必要な情報だけを聞き取ればよい活動(scanning)であることを理解させる。 (話題・概要把握 → 必要な情報の理解 → 聞き取った情報の確認)という流れで、3回聞かせる。 対話文のスタンプドを利用し、音の連結や脱落について理解させる。 事物を紹介することを目的とした英文のスタイルに慣れさせる。 |
| 第2次 (2) | <ul style="list-style-type: none"> 各グループで自分たちが紹介する学校行事を決め、発表内容をメモ書きする。 グループごとに学校行事を紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> 書いた英文を読み上げるだけの活動にならないように、キーワードのみをメモし、それに基づいて話させる。 |

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 外国の高校の校外行事などに関する紹介を聞いた後、自分の学校の行事を紹介したりする。
- イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。(「外国語」第4款2(1))
- 事物に関して紹介している対話を聞いて、概要や必要な情報を理解する。
- ア 事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。(「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例は「聞くこと」を中心とした言語活動であるが、活動全体を通して、教師と生徒及び生徒同士のインタラクションによって理解が深まるようにするとともに、聞いた内容に応用して話すことに結び付ける活動まで発展させることで、生徒に聞く活動の意義を意識させた。

扱う題材は、外国の高校における行事などに関するもので、生徒の背景知識が少ない内容である。したがって、生徒の状況に応じたきめ細かな指導が必要となる。本事例では、次の点に留意した。

(Before Listening) (題材内容に対する興味・関心をもたせ、聞くこととする意欲の向上を図る)

- スウェーデンについて思い付くことを生徒がグループになって自由にブレインストーミングし、聞く題材について興味をもたせる。
- 教科書に出ている写真の内容について説明したり、概要を把握するために必要となるキーワードを提示したりして、これから聞く内容がある程度推測させる。

(While Listening) (マクロからミクロへの段階的なリスニングを通して聞き取る力を育成する)

- 1st Listen: 対話文の話題・概要を把握する。その際、紹介されている行事や建物等の写真を提示して聞き取る内容をできるだけ可視化することで、生徒のリスニングの負担を軽減する。
- 2nd Listen: ワークシート上のポイントに注意し、メモを取りながら細部情報を読み取る。その際、事実(行事の内容)と意見(行事に対する話者の考え)を区別して聞くように注意を促す。
- 3rd Listen: 2nd Listenで聞き取った情報を確認しながら、再度聞く。また、必要に応じて教師が途中で音声止め、聞き取りづらい部分の音声の特徴を説明したり、聞いた内容を別のより易い表現で言い換えたりして、生徒の理解を助けた。

(After Listening) (聞いて得た情報・考えや学習した表現などを、話す力の向上に結び付ける)

- 対話文のスタンプドを提示し、事物を紹介する際によく用いられる表現について学習する。
- 聞き取った題材を参考に、自分の学校の行事について紹介する活動を行う。その際、上記のリスニング用ワークシートと同じものを用意し、紹介する行事についてメモを作成した後、そのメモを見ながら発表できるように練習する。(国際交流を行っている学校にあっては、実際の交流場面において、学校紹介の一部として行うことも可能である。)

(3) 単元構想を基にした授業実践による生徒の変容

授業実践については、目指す生徒像を設定し、その実現のための手だてを単元構想の中に組み込んで行うこととした。実践後、授業中の観察、ワークシートへの記入状況、アンケート結果などを分析し、生徒の変容を把握することとした。目指す生徒像に向けて生徒が成長しているかどうかを把握して考察することにより、さまざまな手だての有効性を検討した。さらに、継続的な授業改善につなげていくために今後の課題を挙げた。

なお、各授業実践は、現行の学習指導要領における科目で行われたが、単元構想の中で新学習指導要領の科目の内容との関連を記述した。これは、今後の単元構想及び授業実践において、新学習指導要領の内容との整合性を意識し、年間を通して内容のバランスが取れていることを確認するために有効であると考えたからである。

(4) 各学校の研究・実践概要

ア 愛知県立成章高等学校

「英語の授業に関する生徒の意識調査一言語活動を中心とした指導方法の工夫に向けて」をテーマとした。高等学校第1学年生徒が、授業で何に重点を置いてほしいと考えているか、また、ペア・ワークやグループ・ワークなどを用いた指導方法に対してどのような意識をもっているかなどについて、本校及び県内5校の生徒へのアンケートを行い、その結果を分析・考察した。

多くの生徒は、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能全てをバランスよく学びたいと思っており、授業で英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいとも考えている。しかし、言語活動の方法によっては抵抗感が見られ、特にスピーチを取り入れる場合には段階的に技能

を高めて自信をもたせるなど、指導手順の工夫や精神面への配慮が必要であると考えられる。

イ 愛知県立御津高等学校

「単元構想とCAN-DOリストによる授業改善の工夫」をテーマとした。各単元における学習到達目標をCAN-DOとして設定し、1年間分を積み重ねて、科目全体のCAN-DOリストを作成することとした。年間学習指導計画と関連付けて、1年間で行う言語活動をバランスよく配置するなど、授業改善に役立つような作成方法を検討した。

科目全体のCAN-DOリストの作成作業を実際に行う過程で、1年間を通して生徒に身に付けさせるべき力を俯瞰^{ふかん}してイメージすることができるようになった。各単元が1年間の指導の中でどのような位置付けにあるか、あるいは各単元がどのように関連しているかという点についても教師の理解が深まり、4技能を総合的かつ統合的に指導するための資料として役立つことが分かった。

ウ 愛知県立昭和高等学校

「英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成ー『書くこと』と『話すこと』を関連付けた言語活動の工夫ー」をテーマとした。第2学年英語Ⅱの授業において、自分が思ったことや感じたことを分かりやすい英語で表現できるようにするために、教科書本文についての英問英答を中心とした内容理解と、本文についての自分の考えを伝え合う言語活動の工夫を単元構想の中心として授業実践を行った。

英問英答とフローチャートを用いた内容の整理や、パートごとの要約記述などの手だてにより、日本語訳に頼らずに内容理解ができることを生徒は実感することができた。また、思いどおりに英作文ができたと感じる生徒が増加するなど、自己表現活動に肯定的な生徒が多く見られた。今後は、添削指導の方法や、生徒が書いた英文を口頭で発表するための練習の在り方などをさらに工夫していく必要がある。

エ 愛知県立豊田西高等学校

「英文の内容理解を基に自己表現ができる生徒の育成ーインテイクを充実し、英語を話すことへの抵抗感を軽減するための工夫ー」をテーマとした。第1学年英語Ⅰの授業において、英語でコミュニケーションを図ることに意欲をもち、学んだことを基に自己表現ができるようにするために、英文の内容理解のための段階的な問いの工夫や、インテイクのための活動及び発表の準備と練習を単元構想の中心として授業実践を行った。

問いの工夫により、生徒は積極的に内容理解に努め、読んだ内容に基づいてまとまった分量の英語を書くことができた。発表については、自分の英文が正しいと自信がもてるように添削をして、練習時間も十分与えることにより、生徒は堂々と話せるようになることが分かった。今回のような言語活動を継続して抵抗感を軽減させながら、生徒同士の意見交換など実際の使用場面に近づけていくことが課題である。

オ 愛知県立一宮高等学校

「速読力・表現力を高める指導方法ーオーバーラッピングとシャドーイングを取り入れた授業実践ー」をテーマとした。第1学年英語Ⅰの授業において、英語の音読に積極的に取り組み、速読ができるとともに、英語による自己表現にも意欲的な生徒を育成することを目指して、シャドーイングなどの音読練習の手順やスピーチ活動の手順を工夫して単元構想に組み込み、授業実践を行った。

授業中に複数回の音読練習の手順を踏んだ結果、速読のスピードが上がってきた。スピーチについては、抵抗感はあるも英語による表現力が身に付くことを生徒は実感している。今後の課題は、相手に適切に伝えるための能力を伸ばすことである。

カ 愛知県立松平高等学校

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成ー『英語の歌』『自己表現活動』『発表』を取り入れた言語活動の工夫ー」をテーマとした。英語に興味・関心をもって、意欲的に相手の伝えようとするメッセージを理解し、自分の考えを英語で伝えるなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指して、第1学年では英語の歌の聞き取りや暗唱を行った。第3学年では英語Ⅱの授業で、本文の内容と関連した自己表現活動と生徒間の相互評価を単元構想に取り入れて、授業実践を行った。

歌の聞き取りには生徒は進んで取り組み、歌のメッセージを理解しようとする意欲の高まりが見られた。自己表現活動では、参考資料や例文を示したり個別指導でアドバイスをしたりすることにより、生徒は自分の考えを英語で書くことに自信をもった。発表では、他の生徒から高い評価を得るために意欲的に取り組んだ。思うように表現できない生徒に対しては、教員が根気強く励ます必要がある。

キ 愛知県立長久手高等学校

「英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成ーライティングにおける自己表現活動ー」をテーマとした。第3学年ライティングの授業で、様々な場面を設定し、段階的に「書くこと」に慣れていく活動を単元構想に取り入れることにより、生徒が興味をもって多様な英語表現を身に付けることをねらいとして授業実践を行った。

生徒は英語を書くことにはあまり抵抗感をもたずに取り組めた。今後は、より適切に気持ちを伝えたり、正確に表現させたりするための指導方法の検討が必要である。また、今回は「書く」ことから「読む」活動につなげたが、さらにそれを発表するなど「話す」、「聞く」活動にもつなげていきたい。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 生徒の意識に応じた授業改善

高等学校第1学年生徒の英語の授業及び言語活動についての意識を調査した結果、英語によるコミュニケーション能力を身に付けることは、新学習指導要領の目標として掲げられているだけでなく、生徒自身が希望していることが明らかになった。「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく学習したいという意欲ももっている。また、英語Ⅰの授業で、英語による授業を受けているという実感をもっている生徒の割合が高く、教員の授業改善が進んでいることも示された。

今後の課題としては、スピーチなど言語活動の種類によっては抵抗感が見られるので、各校での生徒の実態を踏まえて言語活動の方法を選択したり、生徒が英語を使うための準備や練習を充実したりするなどの工夫が必要である。また、学習到達目標と言語活動のねらいを明確にして、生徒が主体的に取り組むための手だての工夫も必要となる。

必要に応じて今回のようなアンケート調査を行うことは効果的であるが、日々の授業の中での生徒の変容を捉えることも重要である。生徒の活動の様子を観察したり、ワークシートなどの記入状況を点検したりして授業の記録を積み重ねて、各校での課題を明らかにすることにより、評価を含めた授業改善の方向性が定まると考えられる。

(2) 単元構想の活用とCAN-DOリストの具体例

単元構想については、統一した様式を用いることにより、言語活動を中心とした指導計画を立てて手だてを整理していくことができた。CAN-DOの記述も様式に含まれ、1年間の単元構想が積み重なってCAN-DOリストが完成するという具体例を示すことができた。

課題として、CAN-DOの達成度を測るのに適したインタビューテストやスピーチテストなどの評価方法を設定することと、言語活動とその評価が1年間を通してバランスよく行えるような年間指導計画を立てることが挙げられる。

また、各学校の研究授業等で示される一時間当たりの学習指導案だけでは単元全体の計画が把握できず、改善のための検討が難しいことがあるが、単元構想を加えることで実践の全体像が明らかになり、問題点も見付けやすくなる。授業改善のための資料としても単元構想を活用することを提案する。

(3) 単元構想のさらなる工夫

各校で目指す生徒像を設定してその実現に向けた言語活動の工夫を試み、Q-A及びチャートを用いた本文の内容理解や、既習の英文の知識を活用した英作文などの手だてを単元構想に組み込むことができた。授業実践により、日本語訳に頼らず英問英答による内容理解ができることや、自己表現活動において生徒の意欲が高まることなどが示され、今回の実践の手だてが生徒のコミュニケーション能力を育成するのに有効であることが検証された。

生徒は英語で話すことに抵抗感をもっていたとしても、話せるようになりたいと望んでいるというアンケート結果を踏まえ、生徒の実態に応じて自己表現を促すための工夫をして、コミュニケーション能力を育成していく必要がある。今後も、単元構想による学習到達目標の明確化を基に、さらなる授業改善を続けていきたい。

参考文献等

1 単元構想及び言語活動の事例について

- 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）』
国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2012）
- 『言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】＜外国語＞』
文部科学省（2012）
- 『TBLT 導入による英語授業の改善－タスク活動を通じたコミュニケーション能力の育成－』
愛知県総合教育センター（2009）

2 授業実践例及び学習指導案について

- 『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料3』
※各校に配付されているDVDの学習指導案が文部科学省ウェブサイトに掲載されている。
- 『Broaden Your Horizons with English!－英語を使って羽ばたく日本人－』
※各校に配付されているDVDを授業で教材として活用する際に用いることができるワークシート例が文部科学省ウェブサイトに掲載されている。

3 授業での英語使用について

- 『More English in Class－英語で授業を行うための表現集－』
愛知県総合教育センター（2002） ※解説付きの英語表現集
- 『Classroom English（教室英語集）』
愛知県総合教育センター（2009） ※一覧表形式の英語表現集
- 北海道旭川北高等学校ウェブサイト「英語の授業」
※平成19～21年度文部科学省SELHi指定校。英語による教員指導手順や生徒用予習補助プリント、Positive Feedback表現例一覧などが公開されている。